

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.20
2014.August

発行者 琉球病院事務部長
吉永 可公

院長

福治康秀 (ふくじ やすひで)

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。

95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。

日本病院・地域精神医学会理事。



基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

第3回 国立病院機構精神科レジデントフォーラムに参加しました

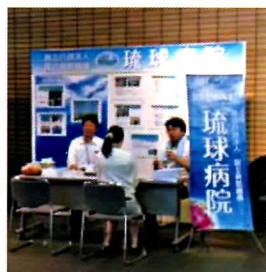
去る7月12日、東京都目黒区の国立病院機構本部講堂にて“第3回国立病院機構精神科レジデントフォーラム”が開催され、当院からは精神科医師5名、事務職1名の計6名が参加しました。このフォーラムには、全国の国立病院機構(以下、NHO)で研鑽を積んでいる若手の精神科医師が多数集い、また精神科医療に興味のある医学生や臨床初期研修医にも幅広く参加を募り、各病院での精神科研修における研修成果発表や、各病院の特色についての紹介、第一線で活躍する精神科医による特別講演、及び交流会が行われました。

研修成果発表では、若手の精神科医師が日々の診療を通じて学んだことや研究計画等が発表され、適宜質疑応答や上級医からのアドバイスもあり、活発な議論がなされました。当院からは症例報告として、クロザピンの導入に際して修正型電気けいれん療法(以下、m-ECT)を併用することで病状が安定し、円滑に社会復帰につなげることができた治療抵抗性統合失調症の一例について発表させて頂き、最優秀発表賞を頂きました。当院では治療抵抗性統合失調症に対して積極的にクロザピンやm-ECTによる治療を行っています。これらの治療について全国の病院から評価を頂きましたことを、とても光栄に思いました。

当院の病院紹介では、クロザピンの使用例が現在116例を数えていることや、m-ECT、医療観察法医療、アルコール依存をはじめとする依存症医療、小児思春期精神医療、認知症医療、包括的地域精神科医療、重症心身障がい児医療等、精神科における専門医療について幅広く学ぶことが出来る環境であることを紹介致しました。また当院のもうひとつの大きな特徴として、女性医師が働きやすい職場を目指していることを紹介致しました。女性医師は妊娠がわかった時点で当直が免除され、産前産後休業や育児休暇は取得しやすく、復帰後も当直は免除され、子育てをしながら自分の専門分野に専念できます。過去5年間で6人の女性医師が10人を出産し、育児休暇を取得しています。

特別講演では、京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座(精神医学)の村井教授による“精神医学へのいざない”と題された講演を拝聴しました。幸福とは何か、精神科医療のゴールとは時代の要請によって変化するのではないかなど、興味深くかつ初学者にもわかりやすい内容で、様々な視点から精神医学を見つめ直すことができました。

交流会では、他のNHO精神科との情報交換を行い、各病院と経験を共有しました。このフォーラムを通じて私たちに多くの学びがあったのはもちろんですが、参加した医学生や臨床初期研修医の方々もこれを機会に精神科医療により一層興味を持ち、近い将来共に働ける仲間となることを期待しています。



精神科医師 吉田 和史

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
- ユニット 4床
- ・重症心身
- 障がい 80床
- ・医療観察法 37床



那覇市からのアクセス

●アクセス
路線バス/ 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖繩/CS [77番名護東線]浜田/CS下車徒歩3分
自動車/ 那覇市から40分
沖繩自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
進捗状況 本体工事：請負業者 電気設備 (株)九電工
機械設備 (株)三建設備工業
建築(第1期)工事 (株)浅沼組
建築(第2期)工事 (株)浅沼組

教育・研修

- 琉球病院盆踊り大会
日時：平成26年8月14日 木曜日 18時～20時 場所：琉球病院玄関前駐車場(雨天：体育館)
- 第1回児童・思春期アルコール関連問題研修会
日時：平成26年8月22日 金曜日 8時30分～17時00分 場所：琉球病院研修棟3階研修室
対象：行政関係職員、学校関係職員、警察関係職員等

地域医療連携室だより

当院の退院促進病棟では、長期入院の患者様の退院促進に取り組んでいます。患者様の生活機能を評価し、作業療法参加を中心として機能維持・向上を目指し退院へ繋がるよう他職種や地域の支援員・ご家族との連携を取りながら支援をしております。尚、お困りのことがありましたら、お気軽に地域医療連携室へご相談ください。



空床状況

精神科病棟
5床

認知症
2床

アルコール
5床

児童思春期ユニット
2床

7月28日現在

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17:15(土・日・祝日以外)
TEL:098-968-2133(代)
内線:231・234
FAX:098-968-7370
地域医療連携室直通

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目の投与を開始し、全症例は116例になりました。6月の新規導入は1例でした。重度の精神症状を持った患者様が回復され、その退院数も40例を超えています。クロザピン専門外来も3回/週行っており、患者様のご相談をお待ちしています。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成26年6月の治療実績3例であり、各症例とも改善傾向が認められております。



こども心療科

〈子どもグループを始めました〉

今年の5月より、月1回のペースで児童の集団療法プログラムを立ち上げました。当院に相談に来る子どもたちの中には、家族や信頼できる大人との個別的なかかわりが大事な時期から、「友だちと仲良くなりしたい」「友だちの作り方を知りたい」「友だちに自分の気持ちをうまく伝えられるようになりたい」という友だちとの交流がテーマの中心となる子どもさんがいます。当院でも個別診療で行う支援に加えて、子どもたちが次の一歩を踏み出すために、友だちとのかかわり方を学んだり、楽しんだり、自分を表現することを目的に、年齢の近い友だちとの交流の場と支援を提供することにいたしました。現在は主に小学校高学年の子どもたちが、お互いに自己紹介したりゲームを通して友だちとのかかわりを育てています。

(現在のところささやかな規模でスタートしましたので、参加については個別相談の中で検討させていただいております)

認知症医療

〈認知症治療病棟パンフレット更新のお知らせ〉

認知症治療病棟では、この度パンフレットを新しく作成し、県内の行政機関や介護保健施設、老健施設に伺い、病棟の紹介や認知症の早期発見の重要性についての説明を行っています。当院に認知症治療病棟があることを、地域住民の皆様や中部・北部地区の病院・施設など、より多くの皆様を知って頂きたいと、広報活動に力を入れています。

これからも地域の皆様とネットワークの輪を広げ、連携を図っていきたく思いますので、よろしくお願ひ致します。



重症心身障がい児医療

当病棟では2週に1回、動作法の時間を設け、利用者の方へ関わりを持っています。「動作」とは、身体運動をコントロールしている主体の活動と定義されます。当病棟での動作法では、常に身体の緊張状態が持続されているような強度行動障害者等へ、身体全体の力を抜くことが出来る時間(身体のリラックス)を提供することを目的としています。身体全体のリラックスが図られると、身体的な「快」が生まれ、精神状態も安定することがあります。様々なアプローチ法が有る動作法ですが、当病棟では比較的实施が容易な腕上げコントロール法、躯幹のリラクゼーションの2種類を中心にアプローチしています。

当院外来でも毎週水曜日に「動作法」を実施しております。興味がお有りの方は、下記担当者にお問い合わせ下さい。

育指導室 主任児童指導員 守山

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では6月現在、外来通院の患者様53名、入院中の患者様21名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入をすすめています。断酒が困難な方は、ぜひ外来に受診し相談して下さい。

〈平成26年度 第1回 琉球病院児童・思春期アルコール関連問題研修会のお知らせ〉

平成26年8月22日(金)、当院にて児童・思春期のアルコール関連問題の予防、教育、医療、司法、行政に関わるさまざまな職種の関係者を対象に、子どもたちのアルコール関連問題の予防・医療・相談についての基礎知識から専門的知識の普及を図ることを目的として、標記の研修会を開催します。また、学校で抱えるアルコール問題を共有し意見交換を通して相談機関との連携や、児童・思春期の子どもとその親の特徴を理解した上で、早期介入の方法を理解することが目的です。

包括的地域精神医療 (ACT)

梅雨が明け、7月初旬に比謝川が氾濫する台風に見舞われました。訪問看護も2日間活動を自粛しました。訪問利用者の方への大きな被害はありませんでしたが、大変な2日間であったと思います。猛暑が増し、訪問時に窓を閉めきり、避暑対策ができず熱中症になる方がおりました。暑い時期には、睡眠や休養を十分に取って、水分を多く取る等の対応ができるように利用者へ声かけを行ない、訪問スタッフも額の汗をぬぐいながら、日々中北部地区を訪問しています。

臨床研究部活動状況 - 臨床心理学研究室より -

【在院日数の短縮からわかったこと - クロザリル導入から4年半が経過して -】 狩俣弘美

琉球病院でクロザリルを導入してから、約4年半が経過し、現在では登録番号も110を超え、クロザリル処方方は琉球病院での薬物療法の一つとして、特別なものではなくなりました。2012年に2例の無顆粒症を経験した後、2012年7月から退院促進に向けたカンファレンスを開催しました。このカンファレンスの開催によって、これまで私たちは、クロザリルを服用している患者に対し、副作用のことばかりを懸念し、そこだけ重点を置いた観察しかできていなかったのではないかと、そして私たち医療チームとしての目標は、その人が退院し、社会の一員として、その人なりに、安心して暮らせるようになることに気づきました。結果としてカンファレンスを開催した前後の患者の入院日数を比較すると、カンファレンス開催後の患者(登録番号46～)の入院日数が、カンファレンス開催前の患者(登録番号1～45)より200日以上短くなりました。

